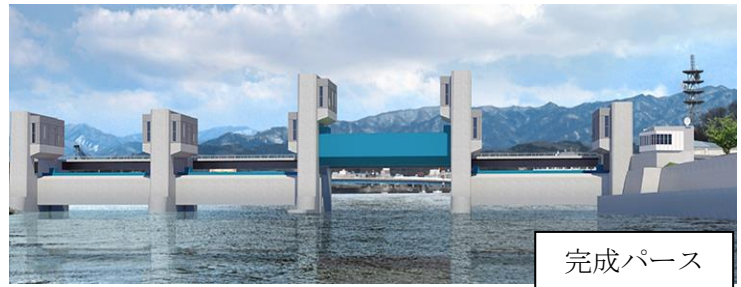


第674回建設技術講習会 現場研修事業の概要

1. 閉伊川水門災害復旧事業

..... 宮古市藤原地内

- ・東日本大震災津波により市街地が広く浸水し甚大な被害を受けた岩手県宮古市において、津波から市街地を守るため水門・防潮堤等の整備を進めている。
- ・このうち閉伊川水門は閉伊川河口部に整備中の国内最大級の津波対策水門。
- ・閉伊川水門は、計画堤防高T.P. +10.4m、延長164.4mで、船舶の航行を確保するため航路部を有する。
- ・これまでにⅠ期工事として左岸側の水門本体工事が完了。現在Ⅱ期工事として右岸側の仮締切を進めており、仮締切後に右岸側の水門本体工事に着手する。



2. 山田地区震災復興土地地区画整理事業

..... 岩手県下閉伊郡山田町

- ・東日本大震災津波により、壊滅的な被害を受けた岩手県山田町の「山田・織笠地区」について、市街地の再生にかかる面整備に加えて、国道や河川整備事業、災害公営住宅など多様な復興事業を総合的に実施。
- ・防潮堤の整備、地盤の嵩上げとともに、被災市街地を復興するための都市基盤の整備、街区の再編を行い、山田町の中心市街としてふさわしいまちの復興を図った。



3. 高田松原津波復興祈念公園整備事業

..... 陸前高田市

- ・東日本大震災津波前の高田松原は、約350年前から造林された7万本の松林が広がり、三陸沿岸地域を代表する景勝地であった。
- ・高さ15mを超える津波により、砂浜と松はほぼ消失したが、1本だけ生き残った「奇跡の一本松」は復興への希望の象徴として、多くの人々を勇気づけてきた。
- ・高田松原津波復興祈念公園は、東日本大震災の犠牲者へ



の鎮魂や日本の再生に向けた復興への強い意志を国内外に向けて明確に示すこと等を目的とした復興の象徴となる公園として、国、岩手県及び陸前高田市が連携して整備を進めている。令和元年9月22日には本公園の主要施設である、国営追悼・祈念施設の一部、道の駅「高田松原」及び東日本大震災津波伝承館が利用開始された。今後の全面供用に向けて、引き続き整備を進めている。